

7月9日

第2回探究的な学習の在り方に関する研究推進地域連絡協議会(県)

県の2回目の協議会も、オンラインで行われました。

この回では、武庫川女子大学准教授 藤本勇二先生の講演がありました。

生活科や総合的な学習の時間を行うとき、「子どもは有能な学び手であること」を前提に授業を作ることが大切。教師の役目は、活動の達成を支援することではなく、子どもたちがやりたくなるような環境を作ること。そのために、児童の実態を把握し、教師の出の質を向上することが大切であるということ

子どもたちが自分で考えて動く時間がとても少なくなっている。

研究協議は「みんなで『見取る』様式」を取り入れ、授業者が見取ることができなかった一人ひとりの子どもの育ちを、参観者から担任にギフトとしてあげるようにするとよい。

話し合いがとても大切で、個と集団とのかかわりを通して、気づきの質を高めることが大事。

生活科から総合的な学習の時間の充実のために

- 1 幼児教育とのつながり  
環境構成を工夫する・状況をつくる  
教師の出の質を変える
- 2 活動を通して資質・能力を育てる:その1  
子供を主語にする  
有能な学び手である子供
- 3 活動を通して  
資質・能力を育てる:その2  
探究課題の設定  
リソースの活用



などなど、他にも「なるほど!自分たちの学校でも取り入れていきたい!」と感じることも多く、たくさんのことを学ばせていただきました。

また、この研修会では、事前課題が出されていました。それは、「研究や実践の方針」のポイントをA4、1枚にまとめるというものでした。その資料を使いながらグループ交流しました。

他校,他中学校区の取組を見ると、一段と焦りを感じてしまった研究推進リーダーです。

他校がまとめられた「研究や実践の方針」は素晴らしいものでした。中身はもちろんのことですが、レイアウトもとても参考になりました。

今後も他校の実践や研究から学びながら、自分たちの研究を進めていきたいと強く感じました。

主体性を発揮する児童生徒の育成

—「地域」を教材とした探究的な活動を通して—

PBLの考え方に基づいた共通認識

- ・中学校区小中学校連携教育推進委員会総会で説明
- ・合同研修の実施(夏季合同研修)
- ・日々の授業交流

育てたい資質・能力の明確化

- ・資質能力アンケート作成・実施(児童・生徒&教職員)
- ・アンケートの分析から、強みと弱みの実態把握
- ・授業研究での実態把握

「地域教材」の掘りおこし

- ・先生も地域に出て,探究!(長期休業を使得のフィールドワーク)
- ・地域人材バンクの見直しと作成(これまでの資料をもとに)
- ・地域人材との連携強化
- ・年間指導計画の修正
- ・研究通信の発行

単元開発!

- ・「本質的な問い」づくり
- ・単元の深化
- ・単元におけるルーブリックの作成
- ・指導と評価の一体化

研究の方針

神石高原町 三和中学校区

